

が窺える。田んぼの畦は別な表現で描かれていることと、川に架かる橋にも等間隔の横線が描かれていることから、道路の表現であることが解る。馬場には等間隔の横線が描かれていないことから、当時の人の目にも映っていなかったと考えられる。枕木状の施設を表現しているのであれば、馬場まで続いていても良さそうであるが、そうではない。

考えられるのは、水田地帯の道路に当時の人々が目に見える形で、等間隔の施設もしくは窪みが存在していたのではないかということである。坂道や階段部分にも同じ表現がなされていることから、施設というよりもむしろ足掛かりとなるような窪みの方が理解し易い。したがって、「村上ようがい」図の道路面に描かれた等間隔の横線は波板状凹凸面を表現したものであると考えられ、当時の人々も等間隔の窪みを目にしていただいた可能性が高い。

(3) 海外の映像

波板状凹凸面が牛や馬が永年歩いた痕跡であるとするならば、日本の古墳時代から近世前半だけに限って存在する必要はなく、海外で交通手段として動物を利用している地域では現在でも波板状凹凸面と同様な痕跡があるのではないかと考え、写真や映像を注目していた。そして、2001年12月25日にテレビ朝日系列で放映されたネイチャリングスペシャル「世界初取材 地球最後の秘境 ワハーン」の一

シーンに、アフガニスタンのキリギス族のキャラバン隊がバミール高原のワハールからパキスタンのチャブールサンへぬける際、連続する窪みが映し出された。急な斜面を等高線に沿って通路は延びており、荷物を背負わせた馬や交



第4図 「村上ようがい (臥牛山)」 周辺地形図



第3図 村上ようがい図 (越後国兼波郡給園部分)「米沢市 (上杉博物館)」 所蔵